

令和5年度北陸農政局消費・安全対策交付金事後評価概要一覧表(総合評価)

富山県

1. 令和4年度消費・安全対策交付金(食料安全保障確立対策推進交付金:ソフト事業)(令和4年度当初予算)

県市名	交付金相当額(円)	総合達成度	都道府県等の事後評価			国の事後評価	
			総合評価	評価の概要及び指導方針等	第三者の意見	総合評価	評価の概要及び指導方針等
富山県	一般型 (農畜水産物の安全性の向上、伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止) 5,430,576	92%	A	<p>一般型</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な達成度は92.9%・101%と、全ての事業がA評価であることから、食の安全・消費者の信頼確保に寄与したと思われる。 引き続き、食の安全・消費者の信頼確保のための各種事業に取り組んでまいりたい。 	<p>一般型</p> <p>所属・役職: 富山県農業信用基金協会・専務理事 氏名: 作井 英人</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業による農業の適性使用等の総合的な指導、家畜並びに養殖魚の徹底した衛生管理指導、農業に頼らない病害虫防除の実証などを通じて、本県での食の安全、消費者の信頼確保に大きく寄与したものと認められる。 今後とも県民の食の安全や信頼確保、食育の推進のため、十分な予算の確保と現場と連携した効果的な事業展開が望まれる。 	A	<p>一般型・特別交付型</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業全体(一般型: 4事業、特別交付型: 1事業)では、全ての事業がA及び適正の評価であり、総合達成度92%と、事業が計画的に実施され、期待された成果が得られたと認められる。 実施された事業は、食品の安全と消費者の信頼の確保のための重要な取組であり、今後も継続した実施が望まれる。 なお、個々に助言を行っている事業については、より一層事業の効果が発揮されるよう努めていただきたい。
	特別交付型 200,000	達成	適正	<p>特別交付型</p> <ul style="list-style-type: none"> 諸外国からの豚熱等の感染拡大・発生予防は継続されており、家畜衛生の推進に寄与したと思われる。 引き続き、豚熱等の発生予防及びまん延防止にかかわる本事業に取組み、発生予防・まん延防止に取り組んでまいりたい。 	<p>特別交付型</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業による富山空港での靴底消毒の徹底により、豚熱・アフリカ豚熱等の家畜伝染病の県内の侵入防止に、寄与したものと認められる。 今後、海外との往来が活発化することが予想されることから、引き続き、本事業を活用した豚熱・アフリカ豚熱の徹底したまん延防止対策に努められたい。 	適正	
	一般型 (地域での食育の推進) 3,363,710	101.11%	A		<p>一般型</p> <p>所属・役職: 富山県農業信用基金協会・専務理事 氏名: 作井 英人</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに策定された「第4期食育推進計画」に基づき、「富山型食生活」の推進をベースに、食育推進リーダーの育成や県・市町村レベルでのイベントの開催等により、本県の食育推進に大いに寄与したものと認められる。 今後とも県民の食の安全や信頼確保、食育の推進のため、十分な予算の確保と現場と連携した効果的な事業展開が望まれる。 	A	<p>一般型</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業は、一部でB評価があったものの、全体の達成度は101.11%とA評価となっており、成果が得られたものと認められる。 実施された事業も、食の安全や消費者の信頼確保、食育の推進のためには重要な取組であることから、今後も継続した実施が望まれる。 なお、個々に助言を行っている事業については、より一層事業の効果が発揮されるよう努めていただきたい。

令和5年度北陸農政局「消費・安全対策交付金」事後評価概要一覧表

富山県(農業)

1. 令和4年度消費・安全対策交付金(食料安全保障確立対策推進交付金:ソフト事業)(令和4年度当初予算)

目的	目標	事業実施計画 (事業実施主体)	事業実施実績	交付金相当額(円)	目標値及び実績			都道府県等の事後評価			国の事後評価	
					目標値	実績	達成度	評価	評価の概要及び指導方針等	第三者の意見	評価	評価の概要及び指導方針等
I 農畜水産物の安全性の向上	農業の適正使用等の総合的な推進	農業の安全使用の推進 (富山県)	1 講習会及び研修会の実施 実施回数 3回 参加者数 39人(とやま農業未来カレッジ研修生、病害虫防除員他) 2 啓発活動の実施(農業危害防止運動など) 資料配布数 654部 広報手段(冊子、ポスター、チラシ、HP、スポット広報等) 3 農業使用状況調査(農業使用者)の実施 調査数 53件(不適切な使用 0件) 4 農業使用状況調査(ゴルフ場)の実施 調査数 15件(不適切な使用0件)	374,576	農業の不適切な販売及び使用の発生割合 7.0% ※算出根拠: $\frac{((0/15) \times 100) + ((23/150) \times 100)}{2} = 7.7\%$	7.7%	99%	A	農業の不適切な使用の発生割合は0%であった。 しかし、農業の不適切な販売の発生割合は15.3%で、帳簿の不備や期限切れ農薬の保管など、軽微であるが23店舗で不適切な販売があった。 今回の不適切販売者には立入検査または再検査等により適正化を図ったが、不適切な販売をなくすために、農業管理指導士研修の受講推進や定期的な立入検査などにより、農業の適正使用等の総合的な推進および指導を継続的に行うことが必要である。	池原 義信 ((公社)富山県農林水産公社・農業部農業担い手育成課長) 目標値をほぼ達成し、本事業の効果が認められる。 農業取締法に基づく適正な農薬の販売・使用を今後も確実に推進するため、本事業の総合的な推進を継続して実施することが肝要である。	A	農業の安全使用の推進については、農業販売者及び使用者等に対する講習会及び研修会の開催、ポスター・チラシ等を活用した農業危害防止運動の推進によって、農業の不適正使用の防止に寄与したと考える。 農業の適切な管理及び販売の推進については、農業管理指導士等に対する研修の実施及び販売店舗での巡回調査によって、適切な啓発・指導をしていると考える。 今後も各種講習会の実施、販売店舗への巡回指導を継続し、農業が適正に使用・販売されるよう努めていただきたい。
		農業の適切な管理及び販売の推進 (富山県)	1 農業管理指導士の認定(研修及び試験) 実施回数 2回(7月、11月) 参加者数 316人(うち新規75人) 総認定者数 972人(R5.3.31現在) 2 販売者に対する実態調査の実施 届出販売者数 569件(R3.3.31現在) 調査店舗数 150件(不適切な販売23件) 指導内容(延べ数) 帳簿の不備 14件 陳列の不備(不明確な区分) 1件 保管管理の不備(不適切な保管、期限切れ農薬の保管) 8件		(農業の不適切な使用の発生割合) 0.0% ※算出根拠: $(0/15) \times 100 = 0\%$	0.0%	...					
					(農業の不適切な販売の発生割合) 14.0% ※算出根拠: $(23/150) \times 100 = 15.3\%$	15.3%	...					

令和5年度北陸農政局消費・安全対策交付金事後評価概要一覧表

富山県(家畜衛生)

1. 令和4年度消費・安全対策交付金(食料安全保障確立対策推進交付金:ソフト事業)(令和4年度当初予算)(特別型)

目的	目標	事業実施計画 (事業実施主体)	事業実施実績	交付金相当額(円)	目標値及び実績			都道府県等の事後評価			国の事後評価	
					目標値	実績	達成度	評価	評価の概要及び指導方針等	第三者の意見	評価	評価の概要及び指導方針等
II 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進	(富山県) (2)家畜の伝染性疾病の発生予防 空港靴底消毒	豚熱・アフリカ豚熱などの家畜伝染病の発生予防及びまん延防止のため、消毒液を染み込ませたマットを富山空港に設置し、乗客の靴底消毒を行った。 消毒マットの設置場所:富山空港の国内線到着出口 消毒マットの設置期間:令和4年4月1日～令和5年3月31日 靴底消毒は県内への病原体の侵入予防となり、県内養豚場での豚熱・アフリカ豚熱といった家畜伝染病の発生防止に貢献した。	200,000	豚熱・アフリカ豚熱の発生予防及びまん延防止	豚熱・アフリカ豚熱の発生予防及びまん延防止	達成	適正	富山空港での靴底消毒は、豚熱・アフリカ豚熱の発生予防ならびに病原体の侵入リスクの低減につながった。 ○富山県獣医師会会長 久保 博文 引き続き衛生管理の推進を図り、豚熱等の家畜伝染病の発生予防に努めて頂きたい。	適正	県内養豚農場における豚熱の発生がなかったことから、事業計画当初の目標が達成されたと認められる。 今後も、家畜伝染病の発生予防及びまん延防止に努めていただきたい。	

令和5年度北陸農政局消費・安全対策交付金事後評価概要一覧表

富山県(病害虫)

1. 令和4年度消費・安全対策交付金(食料安全保障確立対策推進交付金:ソフト事業)(令和4年度当初予算)

目的	目標	事業実施計画 (事業実施主体)	事業実施実績	交付金相当額(円)	目標値及び実績			都道府県等の事後評価			国の事後評価		
					目標値	実績	達成度	評価	評価の概要及び指導方針等	第三者の意見	評価	評価の概要及び指導方針等	
II 伝染性病害虫・病害虫の発生予防・まん延防止	病害虫の防除の推進	薬剤抵抗性病害虫・雑草や従来の防除対策では十分な効果が得られない病害虫・雑草等の管理手法の確立(富山県)	<p>【目的】 薬剤抵抗性病害虫・雑草や従来の防除対策では十分な効果が得られない病害虫・雑草等の管理手法の確立 合成超音波(以下、超音波)を用いた物理的防除技術を活用し、ハトムギ栽培におけるアワノメイガの圃場への侵入を防止することにより、発生密度を低減させる。化学農薬に頼らない防除技術体系を確立するため次の現地実証試験を実施し、普及推進を図る。 対象害虫:アワノメイガ 試験内容:超音波の導入試験(殺虫剤散布回数の削減)</p> <p>【取り組んだ内容】 先進技術を活用した総合的病害虫・雑草管理(IPM)技術体系の確立 1 対象作物及び対象害虫 対象作物:ハトムギ 対象害虫:アワノメイガ 2 取り組んだ防除技術等の内容 事業の実施方法を参照 3 検定手法や防除技術等の実証ほ等の設置場所及び面積(a) 設置場所:富山県富山市吉岡1124-1富山県農林水産総合技術センター農業研究所内圃場(10a) 4 検定手法や防除体系等における防除に関する管理手法の現状からの向上率 化学農薬(殺虫剤)の散布削減率100% 現状2回、本事業の防除体系0回 5 講習会、検討会等開催回数 超音波技術実証説明会1回(8/8) 6 防除が困難な作物の防除体系等の効果把握のための調査手法 超音波を用いたアワノメイガの物理的防除技術の導入により、化学農薬(殺虫剤)の散布回数を削減した防除体系の実証試験の実施 ・試験区:超音波有りー化学農薬無し ・慣行区:超音波無しー化学農薬有り(2回散布) ・無防除区:超音波無しー化学農薬無し 調査項目:アワノメイガ被害基準、成虫発生量等 7 現在の発生状況調査又は病害虫防除の経費(10a当たり、対象作物毎) 経費:殺虫剤2回:1,636円 8 新たな管理手法等を導入した発生状況調査又は病害虫防除の経費(10a当たり、対象作物毎) 経費:超音波装置一式:34,169円 9 見学会、広報等の取組 超音波技術実証説明会 参集:普及指導員、農業メーカー、研究員1回 見学会(実証試験紹介看板を設置) 参集:JA職員、農業者等3回 10 ほ場ごとの防除(作付前に取り組んだ防除対策を含む)及び栽培管理の実施状況並びに作付、前期作及び今期作の病害虫の発生状況、気象等の圃場条件を踏まえた従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等の効果の検証結果の概要(作物ごと) 5月下旬播種の作型で試験を実施したところ、茎の芯枯れ被害は、無防除区が7月下旬から発生し、試験区(超音波)は8月上旬からの発生となった。ただし、被害量は無防除区や慣行区を上回り、十分な防除効果が確認できなかった。 本作型における、アワノメイガ雄成虫の発生消長と芯枯れ被害の推移を確認したところ、成虫飛来のピークは3回あり、茎の芯枯れ被害は2回目の飛来ピーク以降急激に増加した。このことから、超音波で1回目、2回目の飛来成虫を確実に防ぐ必要があった。 ハトムギは草丈が2m近くとなることから、超音波装置の設置高さやスピーカーの向き等について再検討が必要と考えられた。</p>	84,000	従来の防除対策では防除が困難となっている作物の防除体系等の普及取組数	1回	1回	100%	A	「ハトムギ」の重要害虫について、超音波を活用した物理的防除の検証を行った。大型の作物であるハトムギでは十分な効果が確認できなかったことから、設置方法を再検討する必要がある。	氏名 池原 義信 所属・役職 (公社)富山県農林水産公社 農業部 農業担い手育成課長 「ハトムギ」におけるアワノメイガの芯枯れ被害は作付け年数とともに増加し、大きな問題となっている。被害の抑制と環境負荷軽減にむけ、超音波を用いた物理的防除法を実証し、紹介できた事は評価できる。 今後、化学農薬に頼らない防除技術のさらなる検証・確認をしていただきたい。	A	合成超音波を使用した新たな防除体系の確立を目的とすることは評価できる。 今回は十分な実証効果が認められなかったが、結果を踏まえて、今後の実証試験につなげていただき、普及に努めていただきたい。

令和5年度北陸農政局消費・安全対策交付金事後評価概要一覧表

富山県(重要病害虫)

1. 令和4年度消費・安全対策交付金(食料安全保障確立対策推進交付金:ソフト事業)(令和3年度当初繰越)

目的	目標	事業実施計画 (事業実施主体)	事業実施実績	交付金相当額(円)	目標値及び実績			都道府県等の事後評価			国の事後評価		
					目標値	実績	達成度	評価	評価の概要及び指導方針等	第三者の意見	評価	評価の概要及び指導方針等	
II 伝染性病害虫・病害虫の発生予防・まん延防止	重要病害虫の特別防除等	重要病害虫侵入警戒調査等の実施 (富山県)	<p>【重要病害虫侵入警戒調査等の実施】</p> <p>(1)チチュウカイミバエ 早期発見のため、青果市場および果樹・野菜等の栽培地に誘引トラップを設置し、現地調査を実施。 〈調査方法〉スタイナー型誘引トラップ内にメドフライコール(フェロモン剤)を設置し、4月～11月に誘殺数調査を実施。</p> <p>(2)スイカ果実汚斑細菌病菌 早期発見のため、名古屋植物防疫所伏木富山支所、新川、富山各農林振興センターと協力し、現地調査を実施。 〈調査方法〉4月に育苗ハウス内において苗の観察調査を実施。7月にスイカほ場において葉および果実の観察調査を実施。</p> <p>(3)ウメ輪紋ウイルス(プラムポックスウイルス:PPV) 早期発見のため、名古屋植物防疫所伏木富山支所、砺波・高岡農林振興センター、広域普及指導センターと協力し、現地調査を実施。 〈調査方法〉5月30日に生産園地で葉の観察および試料採取を実施し、農業研究所で採種試料の検定を実施。</p> <p>(4)コドリンガ 早期発見のため、りんご栽培地に誘引トラップを設置し、現地調査を実施。 〈調査方法〉SEトラップにコドリンガ誘引剤を設置し、4～11月に誘殺数調査を実施。</p> <p>(5)火傷病菌 早期発見のため、現地調査を実施。 〈調査方法〉りんご生産園地において、見取調査を実施。</p> <p>【重要病害虫侵入警戒調査等の実施】 ア 侵入警戒調査実施地点(か所)と調査回数 (1)チチュウカイミバエ 県内5か所 5か所×2か月(4月、11月)×2回=20回 5か所×6か月(5～10月)×4回=120回 計140回 (2)スイカ果実汚斑細菌病菌 県内3か所 3か所×2回=6回 (3)プラムポックスウイルス(PPV) 県内6か所 6か所×1回=6回 (4)コドリンガ 県内1か所 1か所×1か月(4月)1回=1回 1か所×7か月(5～11月)×2回=14回 計15回 (5)火傷病菌 県内1か所 1か所×1か月(4月)×1回=1回 1か所×7か月(5～11月)×2回=14回 計15回 調査の総回数 182回</p> <p>【調査結果および防除状況】 チチュウカイミバエ、スイカ果実汚斑細菌病、プラムポックスウイルス(PPV)、コドリンガ、火傷病菌の発生は確認されず、県内未発生のため、防除は実施されなかった。</p>	235,137	対象病害虫の調査の総回数	182回	182回	100%	A	<p>県内の青果市場および果樹・野菜等の栽培地で行った侵入警戒調査の結果、チチュウカイミバエやスイカ果実汚斑細菌病、ウメ輪紋ウイルス(プラムポックスウイルス:PPV)、コドリンガ、火傷病菌といった重要病害虫の発生は確認されなかった。 本病害虫の発生が農業に及ぼす影響は大きいことから、今後も国と連携した調査を継続する必要がある。</p>	<p>所属・役職:(公社)富山県農林水産公社 農業部 農業担い手育成課長 池原 義信 氏</p> <p>チチュウカイミバエ、コドリンガ及び火傷病菌の発生は国内農業に、またスイカ果実汚斑細菌病、PPVについては県内の生産地に甚大な被害を及ぼすことが想定され、いずれの病害虫も、国や各都道府県と連携し、水際での侵入・定着防止対策が今後も重要である。</p>	A	<p>本事業は、農作物等に重大な被害をもたらさないよう早期発見、まん延防止のため、侵入警戒調査を目的とした事業である。 該当の重要病害虫は確認されていないことが確認できたため、本事業の成果は評価できる。 引き続き調査に取り組んでいただきたい。</p>

令和5年度北陸農政局消費・安全対策交付金事後評価概要一覧表

富山県(家畜衛生)

1. 令和4年度消費・安全対策交付金(食料安全保障確立対策推進交付金:ソフト事業)(令和3年度補正予算繰越分)(特別型)

目的	目標	事業実施計画 (事業実施主体)	事業実施実績	交付金相当額(円)	目標値及び実績			都道府県等の事後評価			国の事後評価	
					目標値	実績	達成度	評価	評価の概要及び指導方針等	第三者の意見	評価	評価の概要及び指導方針等
Ⅱ 伝染性 疾病・ 病害虫 の発生 予防・ま ん延防 止	家畜衛 生の推 進	(富山県) (5)野生動物の対策強化 検体運搬費	野生いのししの豚熱・アフリカ豚熱感染確認検査(PCR検査)を行うにあたり、検体の輸送保管のための資機材(検体送付箱、吸収剤、保冷剤等)を整備し、速やかな検体送付を行った。 その結果、輸送時の二次汚染防止が図られ、さらに検体送付が容易となったことから検査数が確保され、野生いのししの豚熱・アフリカ豚熱感染確認検査の促進につながった。	175,000	豚熱・アフリカ豚熱の発生予防及びまん延防止	豚熱・アフリカ豚熱の発生予防及びまん延防止	達成	適正	豚熱・アフリカ豚熱感染確認検査(PCR検査)の促進につながったことから、本事業は家畜衛生の推進に寄与したと考えられる。	○富山県獣医師会会長 久保 博文 令和4年度において家畜での豚熱・アフリカ豚熱の発生はなかったものの、野生イノシシ対策等は万全とは言えず、引き続き衛生管理の推進を図り、豚熱・アフリカ豚熱の発生予防に努めていただきたい。 なお、野生イノシシは人との共通感染症が多数あることが知られており、得られた検体で豚熱・アフリカ豚熱以外にも行うことが望ましいと思う。	適正	野生いのししで豚熱陽性個体が確認されたが、県内農場での発生はなく、事業計画当初の目標が達成されたと認められる。 引き続き、野生いのしし等野生動物に対するサーベイランスを行い、豚熱・アフリカ豚熱の発生予防及びまん延防止に努めていただきたい。
		(各市町の鳥獣被害対策協議会) (10)野生動物の対策強化 検査促進費	野生いのししを介した豚熱・アフリカ豚熱の浸潤状況を把握するため、検査に供する野生いのししを確保する必要があり、検査促進費を活用した。 その結果、225頭の野生いのししが確保され、豚熱・アフリカ豚熱感染確認検査(PCR検査)を実施することにより、豚熱・アフリカ豚熱の浸潤状況を確認することが出来た。	1,350,000				検査促進費を活用することにより、豚熱・アフリカ豚熱感染確認検査(PCR検査)の促進につながったことから、本事業は家畜衛生の推進に寄与したと考えられる。	○富山県獣医師会会長 久保 博文 市町村有害鳥獣対策協議会の協力を得て、豚熱・アフリカ豚熱浸潤状況の検査による把握は、飼養豚での豚熱・アフリカ豚熱の発生予防に貢献していると評価する。 豚熱・アフリカ豚熱の国内での発生が続いており、リスクがあることから、引き続き市町村有害鳥獣対策協議会の協力のもと、豚熱・アフリカ豚熱感染確認検査(PCR検査)の促進・家畜衛生の推進に努めてほしい。			

令和5年度北陸農政局消費・安全対策交付金事後評価概要一覧表

富山県(家畜衛生)

1. 令和4年度消費・安全対策交付金(食料安全保障確立対策推進交付金:ソフト事業)(令和4年度補正予算)(特別型)

目的	目標	事業実施計画 (事業実施主体)	事業実施実績	交付金相当額(円)	目標値及び実績			都道府県等の事後評価			国の事後評価	
					目標値	実績	達成度	評価	評価の概要及び指導方針等	第三者の意見	評価	評価の概要及び指導方針等
Ⅱ 伝染性 疾病・ 病害虫 の発生 予防・ま ん延防 止	家畜衛 生の推 進	(富山県) (2)家畜の伝染性 疾病の発生 予防 消石灰	消石灰の散布農場 26 戸 (32.78t) 高病原性鳥インフル エンザウイルスに 対する消石灰の消 毒効果により、家 きん飼育農場へ の本病ウイルス の侵入防止が図 られた。 さらに、消石灰 散布は経営者の 飼養衛生管理意 識の向上にもつ ながり、高病原 性鳥インフルエ ンザ等の家畜伝 染病の発生防止 に貢献した。	520,000	高病原性鳥 インフルエ ンザの発生 抑制及びま ん延防止	高病原性鳥 インフルエ ンザの発生 抑制及びま ん延防止	達成	適正	消石灰散布による緊急消毒により、高病原性鳥インフルエンザウイルスの農場への侵入防止、発生予防につながった。 ○富山県獣医師会会長 久保 博文 消石灰散布による緊急消毒を実施したことで、高病原性鳥インフルエンザの発生予防につながったことは評価できる。	適正	消石灰の散布による緊急消毒を行ったことで、経営者の飼養衛生管理意識の向上が図られ、高病原性鳥インフルエンザの発生がなかったことは評価できる。 今後も、家畜伝染病の発生予防及びまん延防止に努めていただきたい。	
		(富山県) (6)家畜衛生対策の推進に係る関連機器の整備 自動核酸抽出装置	野生いのししを介した豚熱・アフリカ豚熱の浸潤状況を把握するため、自動核酸抽出装置を1台購入し、豚熱・アフリカ豚熱感染確認検査(PCR検査)の促進を図った。 その結果、手作業での検査時と比較して個人差のない均一な品質の核酸を確保でき、コンタミネーションの防止も図られた。 さらに検体処理時間が短縮したことで検体受入能力が向上し、野生いのししの豚熱・アフリカ豚熱感染確認検査の促進につながった。	1,142,000	豚熱・アフリカ豚熱の発生予防及びまん延防止	豚熱・アフリカ豚熱の発生予防及びまん延防止	達成	適正	豚熱・アフリカ豚熱感染確認検査(PCR検査)の促進につながったことから、本事業は家畜衛生の推進に寄与したと考えられる。 ○富山県獣医師会会長 久保 博文 豚熱・アフリカ豚熱浸潤状況把を握用するために、自動核酸抽出装置を導入し、豚熱・アフリカ豚熱検査の促進を図ったことは、当該疾病の防疫に有効であったと考える。	適正	自動核酸抽出装置を導入し、検査処理時間の短縮や検体受入能力が向上したことで、野生いのししにおける豚熱及びアフリカ豚熱感染確認検査の促進が図られており評価できる。 引き続き、野生いのしし等野生動物に対するサーベイランスを行い、豚熱・アフリカ豚熱の発生予防及びまん延防止に努めていただきたい。	
		総合評価		1,662,000			達成	適正	・目標を達成しており、高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の発生予防に寄与したと思われる。 ・引き続き、高病原性鳥インフルエンザの発生抑制及びまん延防止等、家畜衛生の推進にかかわる本事業に取り組んでまいりたい。 所属・役職:富山県農業信用基金協会・専務理事 氏 名:作井 英人 ・本事業により、自動核酸抽出装置を導入し、野生いのししを介した、豚熱・アフリカ豚熱の浸潤状況の検査を促進したことは、両疾病の本県への防疫に有効であったと認められる。 ・また全家きん農家への消石灰の配布は、本県における昨年度の高病原性鳥インフルエンザの発生防止と農家の衛生管理意識の向上につながったものと評価できる。 ・今後とも、本事業を活用した高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の発生予防対策に鋭意取り組んでもらいたい。	適正	・本事業は、適正の評価であり、事業が計画的に実施され期待された効果が得られたと認められる。 ・引き続き、高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の発生予防及びまん延予防等、家畜衛生の推進に努めていただきたい。	